

平成24年10月8日(月)日帰りで前鬼から太古の辻、釈迦ヶ岳を目指して山に入りましたが、その手前の「二つ岩」あたりで道に迷いました。

迷った時、「どうしようか」と考え、川を下って人里まで歩くことに決めましたが、結果的には、これは誤った考えであることが分かりました。

川を下っていくと小さな滝が幾つかあり、川岸の崖をよじ登って山を越えて川を下っている途中、足を滑らせました。

「あっ」と思った時、すでに水の中にいるのに気付き、川の中の岩にしがみつき、岩の上に出ました。

前頭部が痛くて手で触れると、血が付き少し腫れていました。あわてて両手で圧迫し、しばらく仰向けに休みました。

その後も滝を避けながら川を下り、崖っぷちを歩いていた時、滑って仰向けに倒れて今度は後頭部を強打し、「もう終わりか」と思いました。

全く痛くなかったので、「死ぬ時はこんなものなのかな。」と思いましたが、よく見ると、腐りかけた倒木に頭を打ちつけたから痛くないことが分かり、「まだ、見捨てられていないな」と思いました。

再び下流へ下っていくと、巨大な滝に出くわしました。

しかし日没となり、平らな場所を探し、枯れ木を集め、野宿となりました。「ああ、今日はついてないなあ。」

9日(火)、ついに昨日家に帰れなかったことで、「あと2~3日かけて何としても人里へ行こう」と右側の山を越えると緩やかな流れの川があり、これを下って行くと、再び巨大な滝が現れました。

この左岸には下流で前日の川が合流しているのが高い崖の上で観察できました。絶体絶命のピンチでした。

初日の川の左岸の低い山の方へ向かおうと川に近づくと、昨日野宿した場所に出ました。

この時、ある体験を思い出しました。

数年前の5月連休に歩いた羽州街道、雄勝峠の雪の積もった北斜面です。

雪で同じような景色に消えたところを何回も何回も、数時間にわたって歩いたことを思い出しました。「魔のサイクル」です。

「これはまずい」滝の上流で何とか川を渡り左岸へ出ました。

そして山を登り、渓谷に沿ってアップダウンしながら山を下流に向かって移動しました。ここで2日目の野宿。

10日(水)山は上りとなりましたが、気にせず、どんどん歩き、10キロ以上歩いた時、兩岸の山が少なだらかになっているのに気がきました。

午後3時ころ、地表から50センチ位の所を走っているレールに接近したり、離れたりするのに気がきました。

そして、山頂近くの見晴らしのいい所で野宿。

日が落ちると寒いので、持参の物をすべて着て、その上にカッパを着て眠りました。

何しろ、前鬼に駐車した車の中にシュラフ、ヘッドライト等を置いてきたので雨具しかなかったのです。

11日(木)毎日夜明けに出発し、日没に眠る生活をしていました。

食糧が9日に尽きて3日目でしたが、水だけはいくらでも手に入りました。

昼過ぎ、向かいの山の中腹(川から500メートルくらい上)

に横に白いものが見え、1分位ジッと見てみるとそれは橋のようで、ビデオカメラのズームで拡大すると、間違いなく橋でした。

林道に違いないと考え、そろそろ川へ下りようとする、レールも同じように下に向かっていて、レールの先に5～6人乗れるモノレール車両と収納小屋がありました（森林組合のモノレールでした）ので、レールに沿って歩くことにしました。

崖が多く、川に軟着陸できる場所を探しながら3時間、川まであと20メートルの崖の上でレールは終わっていました。

「一度降りて、向こう岸をよじ登れそうな所は？」その時、赤茶けたボロボロの吊り橋を発見、上を支えている鋼線に掴まり、橋には体重を掛けないようにそっと歩き、橋を渡りきった時は「助かった」と思いました。

すると、再びレールが現れ、さらに2時間、岩と土から張り出した木の根に掴まり、足をかけ崖をよじ登って行きました。

しかし日没、野宿。

12日（金）さあ、今日は人に会える日だ。

朝6時、再びレールに沿って上り開始し、7時過ぎにはモノレール車両と収納小屋があり、そのすぐ上が、予想した林道（池郷林道）でした。

下りの道を進むと、腰が抜けました。

山の崩落で道が無くなっていたからです。

しかし、200メートル先にはこの道の続きが見え、崩落部の上を歩いて再び林道に出て、前日に発見した橋を渡りました。

10時前、民家が数軒見えてきました。

右を見ると銀行があり、そこで救助を求め、5分位でパトカーが来て、お巡りさんに「さん（遭難者の名字）ですか？」「はい、そうです。」搜索願が出ていたのです。

そこは、下北山村池原という場所で、吉野警察署山岳救助隊に保護されました。

搜索はヘリが9日から、民間の搜索隊が10日から、そして私が発見された日、12日がタイムリミットでした。

下った川は池郷川で、あまりにも移動したので搜索圏外でした。

後で警察の方から、「山で道に迷ったらその場を動かず、枯れ木を集めて“のろし”を上げるように」と教わりました。

気象条件、モノレール、吊り橋、橋の発見等、私は運良く助かったと思います。

私の教訓を3つ挙げて体験記を終わります。

- 1) しっかりした準備をしてください。（シュラフ、ヘッドライト、詳細な地図、ライター、食糧最低3日分など。）
- 2) 大峰山系とか初めて歩く奥深い山はガイドをつけること。
- 3) 骨折・捻挫した人、体力のない人だけでなく、体力のある人でも山で迷ったら大きな倒木の周りに枯れ木を集めて
2～3日“のろし”を上げること。

私のように、自分が招いた災いだからといって、自分だけで何とかしようとする、生きて帰れないこともあります。

無事に帰還でき、職場復帰しましたが、世の中にご迷惑をかけたことをひたすら反省しております。